日時：2022（令和4）年 5 月 28 日（土）
13:30～16:15

会場：名護市立中央図書館 AV ホール

主催：公益財団法人 日本自然保護協会

後援：名護市教育委員会、沖縄タイムス、
自然保護助成基金、琉球新報（依頼中）
琉球朝日放送（依頼中）

辺野古崎の沖合にある長島で鍾乳洞が発見されました。日本洞窟学会元会長の浦田健作氏を中心に調査を行ったところ、小規模な洞窟であるにもかかわらず、とても多様な鍾乳洞構成物から成り立っていることがわかってきました。世界で初めて発見された小地形もありました。しかも、それらがほとんど人間に荒らされていない姿で、保存されていたのです。浦田氏は、「小さな宝石箱だ」と言われます。

しかし、たくさんの謎も生まれてきました。何故長島のような小さな島に、このような鍾乳洞が作られたのか。辺野古地域に隣り合う宜野座村や金武町にたくさんある鍾乳洞とどのような関係があるのか。沖縄・奄美には、かつてのサンゴ礁が陸に上がった土地、すなわちカルスト台地（隆起サンゴ礁）が広がっています。そして、多くの人々がその上で暮らしてきたのですが、そのような土地とどのようにつきあってきたのか。

長島をはじめとするこの地域の鍾乳洞、カルストは、地域の「宝」です。このシンポジウムでは、このような「宝」をこれからどのように守り、そしてどのように活用していくのかを考えたいと思います。

■プログラム■

<13：30> 開会挨拶

【第一部】

◆「辺野古沖長島で発見された鍾乳洞 ～小さな宝石箱を開いてみる」
浦田健作（九州大学・大阪経済法科大学）

<14：50>

【第２部】

◆「地域の宝としての長島鍾乳洞、そして本島北部太平洋岸のカルスト台地」
中井達郎（国士舘大学・（公財）日本自然保護協会）

◆「宜野座村松田鍾乳洞での取り組み」
森田智代（松田鍾乳洞認定ガイド）

◆ パネルディスカッション
「地域の「宝石箱」鍾乳洞・カルスト ～まもり、活用して行くためには～」
渡久地健（元琉球大学･名桜大学）、安部真理子（（公財）日本自然保護協会）、浦田健作、森田智代

閉会挨拶　東恩納琢磨（名護市議）

<16：15> 閉会

《会場案内》　右の地図をご覧ください。

国道 58 号線を国頭方面に向かい、レストランガストとファーマーズ（農協）の交差点を右折し宮里市営団地の手前から左折する。

＊駐車場はありますが可能な限り公共の交通機関でご来場ください。

《お問い合わせ・連絡先》
日本自然保護協会　保護・教育部
安部　　tel:03-3553-4101
080-5067-0957　hogo@nacsj.or.jp

参加費無料、申し込み不要